

専念寺通信

七月号 (NO. 143)

<http://sennenji.s296.xrea.com/>

ことしの梅雨は、地方によっては豪雨となったり、東京でも、雨量にばらつきがあり、また、晴れると真夏のような日差し、体調を崩しがちな天候です。みなさま、おかわりなくお過ごしでいらっしゃいますか。『通信』の7月号です。

☆夏の盆会

7月13日から15日までが、東京では夏のお盆です。盆の入りの13日には、亡くなった人の魂が帰ってくると言われており、迎え火を焚きます。都会では、住宅の事情からこの習慣はなくなりましたが、精霊棚をつくり、お供えをする習慣はまだ残っています。まこもの莫菴(ごぞ)を敷いて、そこに夏野菜、そうめん、ほおずきなどをお供えします。きゅうりや茄子で動物を作ることもあります。牛や馬です。なくなった人が、来るときは馬に乗って少しでも早く、そして向こう側へ戻っていくときは牛に乗ってゆっくりゆっくりと



行ってください、という私たちの願いがこめられているのです。盂蘭盆会(うらぼんえ)という言葉の語源は梵語、ウランバナに文字をあてはめたものです。ウランバナの意味は「倒懸(とうけん)一倒してつるす一」で、次のような故事に由来します。お釈迦さまの高弟子、目蓮上人が、ある日、六通の神通力で亡くなった母の様子を見ます。すると母は地獄へ落ち、逆さ吊りの苦を受けているのです。目蓮はそのこと

を釈迦に告げ、救いを求めたところ、僧侶たちが夏安居(げあんご)を終える7月の中旬に衆僧を供養するよう教えられます。その供養によって、苦しむ母だけでなく、すべての祖先が救われるとの教えに従って、この供養は続けられました。今では僧侶たちのためだけでなく、すべての人の救いのために盆会が行なわれるようになりました。東京以外の地域では新暦(陽暦)により8月に行なわれます。なお、新暦は地球の自転により計算されたこよみで、旧暦は月の満ち欠けからできたこよみだと言われています。お盆の送り火としてもっとも有名なのは、京都の大文字焼きでしょう。



専念寺では、毎年、新盆を迎えられる檀家さまのための合同供養を本堂で行なっております。今年は、7月15日、日曜の11時からとりおこなわせていただきます。新盆をむかえられる檀家さまにはお電話にてご案内申し上げました。ご参加をお待ちしております。

☆小さなお知らせ: 6月20日の台風で、専念寺境内の樺が一部折れ、お隣の寺の塀を壊し、墓地の通路をふさいでしまいました。21日の早朝、住職が発見し、植木屋さんや墓石屋さんに来てもらい、とりあえず、折れた太い幹の片付けをしました。この樺は新宿区の保護樹木に指定されているため、新宿区のみどりの課に連絡したり、樹木のお医者さんに来て頂いたりしました。樹の中央が洞(うろ)のようになっており、これを守るために10年前くらいから雨よけの特製の蓋をしたりして来ましたが、一部を伐採せざるを得ないと分かりました。お隣のお寺にもご迷惑をかけてしまいました。高齢化している樹木ではありますが、なんとかもう少ししばらく大切に守っていきたくと思っています。塀もケヤキの幹も、皆さまのおいでのなるお盆までにはきれいになる予定です。暑い夏、どうぞご自愛ください。 平成24年7月1日 大黒

